WASON
HQ
1104
J7

驛遞局認可
明治十九年十二月十五日刊行

毎月三回發兌
一冊正價五錢
一ヶ月十五錢

女學雜誌

第四十四號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 44. December 15th, 1886.

第四拾四號

EDITORIAL: Early Marriage as it was discussed in the Columns of "Jiji Shimpō."

LEADING ARTICLES: Die Frauenfrage in Japan (translated); Only a Woman, by Dr. Eastlake (translated); Mr. H. Kato's lecture on "The Oriental Idea of Woman's Position in Life."

BIOGRAPHIES: Porcia; A Woman: No. VII.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISMENT.

●社説　婚姻早晩論

●論説　日本の婦人論（獨乙某學士）○唯女子あり（博言學士イーストレーキ）○男尊女卑の是非得失（加藤弘之君、演説速記）

●佳傳　ブルータスの妻ポルシア○松峰佳人傳（第七回）

●寄書　宗教異假論第二（伊岐定子）○小野小町の話（齊藤新助）○英詩二則

●新報　廿則

●廣告

●歌書一覧（下）

新勅撰集　後堀河院の仰よよつて貞永元年に定家撰す

續後撰集　嵯峨院の仰によつて建長二年に爲家撰す

續古今集　嵯峨院の御代文永二年に重ねて九條基家爲家、行家、光俊等、撰す

續拾遺集　龜山の院の仰によつて建治年中よ爲氏撰す

新後撰集　後宇多院の仰によつて嘉元年中に爲世撰す

以上を八代集に併せて十三代集と云ふ但し前説に万葉集を八代集中に加へたるは誤也

●珊瑚の珠（十四）

○彼のスポルジヨンと云へる有名の教師がある婚姻の席に臨みたる時申されたるは新郎の君は聖書に示しある如く宜しく首とあり玉ふべし但し嫁御寮は此の首を動かすべき頸とあり玉ふべし

○プルタークは云ふ二十八と云へる女の年は尤も美にして且つ其智能の十分に成熟したる頃あり

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第四拾四號　明治十九年十二月十五日

● 社說

○婚姻早晩論

婚姻は早くすべき乎將た晩くすべき乎既に早晩と云へる上は其不可なると共に明白なり。然るに早婚とは婚期に達したる當初の婚姻にして晩婚とは年老ひたる後の上の事なりと云はゞ人誰れか早婚を以て之に其害あるものと云はん。「植木屋の申條に東京邊の栗の壽命を三十年とし初十年の實は不十分に後十年の實は更に之に劣るとありと云ふ」か之れ尤の議論なるべし然れ共草木は花を開かざれば實を結ばざるものなり而して其花は常に期に達して後ち初て開くものなるが故に草木に早過る婚姻と申すはあらざる也人間若し栗の木の如く非情にてあり又其陰陽相合ふの氣婚期全く熟するの時ゞ至りて初て起るとにてあらんには世の生理學者は安行の植木師と共に所云る早婚の害なる者を知らざるべし然れ共造化は人間の躰格を草木の上に置たり陰陽相合ふの準備十一二歳の頃に成り男女相喜ぶの愛情十六七歳の交に起りて而る後ち數歳を經たるの時を以て婚期に最上の期限とは定めたり是れ人間が栗の木にも優り又猿にも優る所にして博士ブラックエルが所云る情慾制治の修練も亦此中に備はるなり故に人間若し栗の木が實を結ぶ程の年となりて初て相婚せば吾人は之を呼んで早婚となさず實に恰好の時代に達してよく合巹の禮を行ひたりとは慶賀すべき也

思ふに人生の婚姻は猶ほ草木の花を開くが如き歟草木は出來べき丈け地下に根を張りて伸び得る丈けは地上に幹を伸ばし地力の許す限り寒暖に差支あらざる限りは十分に生長して而て後ち花を開き實を結び自分一生の義務を果し了りて偖て後生の種を遺すものなり故に庭木の花を開かんとするものに對して先づ試に下葉を摘すべし乍ち花を落して復た伸び上り生ひ育ちて開花の期を延引するを見ん然るに人間は其身躰未全く發達せず骨格尚ほ生々しき間に於て既に婚姻の相談を試み婚姻尚ほ延引し得べき間柄に早く之を強ひて親心に先づ安心なりなど申すとありては彼の草木にだも愧ちざらんとするも得ざる也凡そ人間の生理を知る者は人の一生に二箇の時代あるを見るべし生れて後ち其身躰を發達し了する迄を其一とす此時代漸く終りて後ち其心身を遺傳するの時代となるべし而て此前後相接するの時は大抵男子にありては其二十五歳女子に

ありては其廿一二才の比にあるを常とす所云る適當の婚期なるもの即ち是れ也然るに初代未だ終らざる時早く之を後代の人となし一方に其發達すべき力を壓へて一方には未だ發達すまじき力を伸ばさんとす之に害なからしめんとするも到底能はざることなり故に早婚の害を左程にあらずと云ふ者は未だ早婚の何物たるを知らざるの人と云ふべし

又古人が早婚して其害を受けず野蠻人が早く婚して其身躰を損せざるは固と早婚の害なきにあらず實は古人が愚にして野蠻人が開化せざるゆへなり凡そ進化の定則として動物は其のいよ／＼高等なるに隨ひ發達のます／＼遅きを常とす男子が子供の時は女よりも鈍に豪傑が幼うして大抵愚なるが如き皆よく此眞理を証するものなり左れば未だ開化せざる野蠻民の發情の期も亦自ら早く文明の人にあらざる古人は陰陽の氣も亦必ず早く發達せしとなさん然れども之れ當今の開化人に及ばざる所にして彼此の文野は此一事によりて既に明白なることなり故に苟くも文明の何物たるを知りて此より益々開化の歩を進めんとする者は上が上にも斯る發情の發達を遅くするを好しとす安んぞかの古人野蠻民などの行爲に比較して安心する所あるべきや故に布衣結髮開化の味をも知らざる朝鮮人には早年相婚するの事固より至當の數なり明治時代を知らざる時の忠盛十九世紀の文明に遭はざる鄭國の家康等が那の如き早婚に其身を傷めざりしは固より由緣ありしなと云ふべし然れ共吾人は韓民たらんとを欲せず亦た平治天正の時代を羨まず實に十九世紀の開化を慕ひて彼の二十八才にして婚する英國人二十九才にして婚する日耳曼人の如くならんとを欲するが故に當今の日本に早婚多きとを慨歎するもの也

時事新報の記者は云ふ今の文明の程度にては生理上より論じて早婚を止んとするもさに服するものなしと觀念すべし左れば男女とも居家處世の働に差支なきに於ては其青春の期を失はずして婚すること其身の幸福なるべけれ毫も論に對して憚るに及ばずとこれ俯世を憂ふる者の言か試に當今の現況を見よ世人が早婚を害とするの議論に制されて婚期を遅すと云者は實際甚だ少し寧ろ二十才を過しむべからずとして娘の嫁入口に奔走する母親の滔々たるを見るのみ今の論者たらんものは須く早婚の不利弊害を示して輿論に女子の婚姻を引延ばさしむべし今の母親は其少娘が胡蝶の遊ぶを羨むが故に婚姻を急ぐにあらず其産子の早くして所云る初十年の實を得んとを祈るが故に婚姻を急ぐにあらず實は二十と云へる年限の速

に襲ひ來らんとを恐るゝが故なり故に輿論にして若し女子の婚姻を二十才以後に定めんか老母の心配全く消失して早婚の弊乍ちに止むべし之を是れ思はず未だあらざるの情を察して早婚弊害論に制さるゝ人なからんを勸告するは實に老先生たるものゝ行にはあらざるべし

抑も早婚の弊害は衛生上、經濟上、道德上の三つに現はれて及ぶ所決して少々にあらず吾人が嘗て之を本誌廿二號の紙上に論述して世人の注意を仰ぎたるは當今に於て此弊害の甚だ多きを憂ふると甚だ切なるが故なり然るに歐米の人は和姦年齡の十二才なりしを改めて十八才たらしめんが爲に熱心し我國人は年々に婚期を早くして而も其害甚だ少きとを公論する者あるに至る彼此文明の相違此に至るは實に慨歎すべきとなり

吾人切に世の親たらん人々に告ぐ諸君人の愛娘が新婦となりて子宮病の難に罹るもの甚だ多きを見るか之れ早婚の害なり諸君人の愛兒が近年生育甚だ難く成長尤も困難なるを見るか之れ多くは早婚の害なり諸君學校に十年の苦學を試みたる娘孃の嫁して甚だ其効なきを見るか之れ多くは早婚の害なり諸君亦新夫婦年少の盲愛忽ちに滅して久しからず覆盆の悲哀を現ずる甚だ多きを見るか之れ亦多くは早婚の害なり早婚の害及ぶ所實に多し小にしては一身之が爲に損し一家之が爲に亂れ大にしては一國之が爲に破れ國民之が爲めに弱かるべし諸君希くは區々たる慣習に制縛されて其愛娘息の早婚を謀る勿れ娘孃少年諸君が亦當に自ら之を試みざるべきは別に言ふを要せざるなり

● 叢話

本號には讀者の便を圖て彼の婦人論の双方を悉皆掲げたれば論說欄内特に廣く餘白甚だ少きに付暫く當欄内の叢話を除く

● 論說

○日本の婦人論

左は前號に述置たる獨乙某學士の論文なり

今日日本を動かす總ての燃ゆる如き問題の上に近來一つの新問題出で來れり婦人問題之れなり日本新聞、國字新聞、基督教主義の新聞、及基督教主義ならざる新聞等何れを閲するも皆此問題を討論するを見るなり即ち何如樣にして又何に依りて日本婦女の地位を改良すべき乎を考究せり而して其各が論爭

せる討論と其熱心の激烈なるとに由りて此問題が何如程の勢力を以て現に考究さるゝ乎を知るを得べし

日本婦女の地位に一般の改良を要すると云へる一點に付ては此事件を討論する者殆ど皆な一致せり故に余輩は此點に深く立入るを要せず但だ夫の婦女の地位を改良する方法に付きては諸説紛々たるを見るなり

余輩は先づ日本新聞記者の中に行はるべく見ゆる所の意見及び少くとも日本新聞紙の上に出版されてある所の議論に對し考ふる所あらん抑もかの獨立、自助、男女同權、等の語は直に余輩に告ぐ此等は彼の他國に成長して古くより知られたる所謂るエマンチパチチン(解放)なる者に同じきことを其論の危險なるとは恰も社會主義に隣れるもの丶如し思ふに此論が既に云へる如く殊と日本の土地に發生したるにあらずして只だ人工をもて移植されたるとは一つの幸にして又一つの恨みと云ふべし蓋し余輩が之を恨と云ふものは余輩が知る丈の日本婦女社會に於て斯る改良を行ふに最も關係ある所の者は實に此様の誘惑に全く無關係なるが如く又エマンチパチチンに向て一材料をも存せざるが如くなるゆへなり思に斯る誘惑は遠からず哀しき終を取り或は嘲笑を招きて相當の罰を蒙ることとなるべし

余輩は此意見の目的を最も明白に述べ且つ其因りて來る所を最も好く示すに足る日々新聞の一章を採りて茲に評論すべし蓋し同記者が日本の不幸なる婦女に對して述る所は餘り久しからぬ以前に殆ど同様の語を以て歐洲の婦女に付て云はれたる所の者なり故に彼一章の考案は全躰に於てスチウアルトミルが意を用ひて記述したりと思はるゝ婦女の壓制に關するの著書と同じと云ふべし

人の知る如くミルに婦女の性男子と同じく公務に任じ得べきものなりとの説を初として云く彼の考ふ可らざる時代以向秘密なる相談によりて強者弱者を壓制せり若し此事なかりせば女は男と同じく發育を為すに適せしならんと余輩若し此説を委細に駁論すれば長きに失するの歎あり故に是より以下只だ短かく余輩の説を開陳するに止るべしと雖も要するに彼説は大なる誤を為せり即ち婦女の異性、稟賦、及び義務を全く看過したり

女が男と同じき稟賦及び同じき義務を有すと云ふは甚だ不當なり女が男と全く相違したる義務を有するとは女の身躰を一目して既に明なり即ち女は母となるべきものなり又女は決し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て男と同樣なる躰心の操作に涵せず諸の其力は男よりも弱しと雖も反て大なる忍耐力を有し且つ男よりも遙に大なる痛苦に勝へ得るなり男女の間既に如此き大なる差別あるが上に之と同じく否な一層大なる差異を精神界に於て存せり

精神上の重點を云はゞ男は全く靈及び智の部域に於てし女は感及び情の部域に存せり故に男と女とは猶ほ靈と魂との如し男は天性として多く公同の事に傾く邦國、社會、及び技藝等は其働作すべき領内なり之に反して女は感情の性質により其行は主も家族の上に傾き玆に於て男の同伴者、補助者、慰藉者、小兒の看護者、及び教育者となるなり男に主なる特異の性は勇なりこれ其闘爭を來す所以なりこれ或は妻及子の爲め或は本國の爲め或は己が主義の爲に闘ふ所以なり之に反して女に特異なる性の主なる者は優文、柔和、潔守、靜溫 なりこれ彼に耐へ且つ忍ぶの能力を與ふる所のものなり故に女は男よりもよく困難に立ち又家族の内に於てよく之を支配し恰も其 魂となるなり爰に於てか女の働作の爲に預定したる部域を見るべし然るに女若しこの範圍を外づるれバ天然の境界を外づれたる者の皆然るが如く亦甚しき慘罰を蒙るべし佛國の革命以來種々の時代に於て箇樣なるエマンチパチナンを爲したる婦女を見る此等は半男半女にして而も兩者の何にも屬せざる實むべき情況を呈せり故に彼等は必ず不幸とならずんばあらず蓋し彼の女性なるとが彼を罰するなり然るに之と同樣の事を以て日本婦女を幸に爲し得べき乎抑も女子を大學に入るゝと云ふ所謂る稍や穩當にして而も或は可なる所あるが如き處置も倘ほ之を不快とするものあり余輩の如きも近頃孛國の文部大臣より女子が大學に於て傍聽するを禁ぜられしを美擧なりと思ふ者なり

然れども余輩を女を技藝と學文とより閉ぢ出さんとするには非ず余輩は反て婦女が特に一學科即ち醫學科を專修するとを希望せり但だ余輩が要ぞるは之を當今の大學の範圍内に於てせずして特別なる學校に於てせんとなり思に此樣なる學校は大に益あるべし余輩は又藝學に於て秀でたる婦女あらざるとを云ふにあらず但だ自ら其性を失ひたる婦女に非ざる限りは其藝學は常に婦女に主要なる職務の下に位せるとを確言するのみ

余輩今又目を放つて彼の日々新聞の文章を見るに彼は何れの部域を日本婦女に讓許せる乎其言へる所に依れば官途、銀行、及他の商社に於ける出納吏、記錄者、電信技術者、書記生、及び

數多の他の者あり然れども惜らくは斯の電信技女が非分娩時又は妊娠とあるとを觀察する場合には之を何として可なる乎を記者は言はざりし余輩は之を以て決して嘲笑するの意に非ず只だ女の天性を簡樣なる場合に全く看過せる時は何如なる弊に至るやの理に對し著しき例を示せる迄でなり

之を要するに日本婦女を斯の如くして所謂エマンチパチヨンを爲さんと欲するときは甚だ不幸の事なりと考ふ否な婦女の地位を改良せんと欲せば先彼に屬する相當の地を運用せざる可らず彼等が日本に於て未だ曾て有せざる者をも亦充分に全く許容せざる可らず即ち彼を家庭住居の主人となすべし而して此地位を能く保有せしめんが爲に良き教育と發達とを得せしむべし然る時は女は能く其本分を覺知し且つ處女に正當ある自尊を生じ下等社會を除くの外は今尙ほ全く日本婦人に缺乏せる事々を自知すべし斯て此事を成し果たる後男の造作範圍內へ女が進擊し且つ自由平等を呼び求るの必要を有するや否やを注視すべし思に日本婦人は自由平等を要求するよりも寧ろ甚だ溫和に且つ優美に之を一言すれば眞正の婦德を存するに至らんとの望更に大なるものあり(高田耕安、譯)

○唯だ女子あり　　博言士　イーストレーキ

東京在留獨乙の學士某氏は頃日日本婦人論なる一篇の文を草して之を寄送せられたり行文流暢にして意義明白其論旨取べき所甚だ多しと雖ども亦た吾人の決して許容し能はざる點尠しとせず今該士の說を約言すれば「婦女なる者は殊に家內の事務を幹するに適するものなれば若し之をして此境域を超えて一歩せしめば其害たる必ず大ならん」云々の數語に過ぎず蓋し學士は婦女をして詩文或は彫刻繪畫音樂のことより物理化學の如き科學に關することを學ばしむるを禁せず又大學教育の中少なくも醫學を學ばしむるを禁せず但し學士は明に說を爲して婦女は體力智力共に男子が今日世間國家に對し爲す所のことを爲すに適せずと云はれたり吾人は此點に關しては此學士の見狹隘に過ぎたりと評下せざるを得ず

婦女は體力智力共に男子に及ばずとの偏見を主張する國は天下恐らくは獨乙に過ぐるものなかるべし吾人の曾て諸君に示せし如く壓抑主義の盛に行はるゝを以て世界に有名なる露國に於てすら博識の淑女踵を接して輩出せり且つ其高等中學校も已に女子の入校を禁することなし其他英佛米の諸國皆種々の事業に婦女を使用し婦女の爲すべきとの區域次第に擴張し婦女を尊敬して敢て之を輕視せざるの風あり凡そ男尊女卑の風

勢力を占むる邦國に到れば婦女は家内の奴隷に過ぎずして食物の調理子女の養育の外一も思案する所なく唯だ頭髪衣服の外更に心を勞するとなく政治向のと、國家の利害、學藝詩文の如きは殆んど全く知らざるの狀なり時には音樂繪畫等に心を傾くる子女なきにしも非れども之れとても唯一時の遊戯のみ態々之を考究せんとするにはあらず此の如きもの母親となりたりとてなどか其子をして愛國義勇の志を起さしめ其女の心を開發せしむるを得ん斯の如きもの妻となりたりとてなどか其夫と思想を共にし目的を共にして一生を快く暮らすとを得んや抑も婦女をして此境遇に陷落せしめしは誰が過ぞや外人あらず彼の婦女を仲間外れとし婦女は智力男子に如かずとて無理に之を臺所の片隅に押付け精神上にては之を無用物視しながら唯肉躰上必要なりとて自己の快樂を肆まする道具となす男子の所爲に外ならざる也

蓋し婦女を男子と比較せば其躰力の劣れるとは疑ひもなき所なるが此躰力の劣れりとの一事は以て婦女智力の男子に劣るの證據とすべきや是れ未だ定説なき所なり而して此事を研究するに方りては彼の有名の女流の學識才能等は輕々に看過すべからず何となれば是れ大に男女腦髓の輕重を决するに益あればなり蓋し男女腦髓輕重のとは未だ全く解說し得ざる所あり成程バイロン、クエービール其他の學者は其腦の大さ頗る常人に過ぎたりしに相違なしと雖ども之に反して哲學者の中にても通常の女子より小なる腦を有せし人も亦之あり惟ふに人の智力に優劣あるは腦の大小輕重のみに由らず腦と全身との組立善く均合ふに依るならん又た腦の各部相互の關係にも由るならん此點に關して生理學の確實なりとして吾人に指示する所に從はバ婦女の腦の重量も男子の腦の重量や其全身の重量より比例を取れば割合に於ては毫も異なる所なしと云ふ

然れども腦の輕重は吾人の玆に論せんと欲する所に非ず吾人の論點は婦女は妻とし母とし家内の事に忙しければ男子の如く外に在て事に從ふ能はざるや否やに在り論者は婦女の堪忍強く難に當りて動ぜず自ら忍ぶの性あるとを喋々せられたり而して此自ら抑ふるの點に至りては彼の三軍を指揮し天下を横行したる猛將の倘ほ難しと認めたるとを女子却て能く之を爲すとあり實に世間には眞に稱賛すべき性行却て隱れて人に顯れず婦女が四壁の中に在りて一生涯家事に心配し己れに克ち自らを抑ゆる苦境に到りては人多く之を知らず然れとも事に當りて動せず自ら忍び甘じて苦痛を受くる此の精神は必や

家居の内に非れば用なしと云ふには非るべし思に之を戸外の事に適用して同一の効を收むべし又論者は日本新聞記者が論ずる如く書記、勘定方、或は電信技手等に婦女を使用するの非を嘲笑し若し婦女を斯る事業に使用せば其危險なきや事務取扱中出產するが如き事あらば如何と云はれたり吾人は之に向て唯一箇の答辨を有す近時の統計家の吾人に報ずる所のもの是なり曰く「婦人の世に立て事務を取の力あることは諸國多く之を認めり郡書記、與書取扱人、年金拂渡方、監獄吏員、圖書館官吏、貧民監督人、學務委員、學監、財產管理人、後見人、各州立法會書記生、女囚監守人、學校長、學校教授、州立慈善院、癲狂院、感化院の委員等に撰舉され男子と共に事務を執り同僚の男子も亦能く職を盡すを見て喜べり又銀行會社の書記方內科醫、外科醫、畫工、彫刻師、建築家、著述家、新聞記者、傳道者、代言人、となるものあり而して各州の管轄內にて代言免許を得れば合衆聯邦の上等裁判所に出入するの權あり故大統領グラント氏は五千人の婦人を郵便支局長に任命せり且婦女にして各省の官吏となり重き任命を受けたるもの尠からざれども其職に在て當らず或は瀆職の非難を受けたるものは未だ之あらざるなりと」

論者は此等の事實を看過せられしものと覺ゆ論者は頻りに婦女たるものは家內に在りて夫を慰め或は之を助け又た子女を養育するを以て最大の義務なりと論ぜられたり然れども論者少しく事實を參照せよ世間には未だ家內を有せざる婦女も尠なからず此等の女子は何事を爲して可ならん乎、慰むべく助くべき夫を有せざる女子は如何すべきぞ、且夫れ婚姻は婦女の此世に於て望むべき最上の幸福なるや殊に不知婚姻は十中八九詩人の云が如き幸福なるものに非るとぞ、嗚呼日本には慰むべき夫なく教ゆべき子女なき女子殊に多かり現時日本の識者の論ずる所は婦女は妻たり母たるの外、用なしと云を妄想を破らんと欲するに在り頃日地方の一新聞は社會の不道德は大に人民の無職業に關係あり日本婦人の恥べき事を爲し不幸の境界に在るもの多きは全く婦人に男子の執るを得へき職業を爲すの權利なきが故なりと論ぜり、溫和、柔弱、勘忍强きとは日本婦人の上乘なりとするも又た自ら生活するの方便を求めざる可らず此等の德は美に相違なしと雖ども若し冷淡なる金錢上の事に拘はらば世間の愛想なき市場には餘り價直あるものには非るなり

今や日本の婦女も彼の論者の超ゆるを恐るゝ境域を超ざる可

らざるの機運に際せり婦女は何か職業を求めざる可らず看病人、調劑生、書記、勘定方、畫工、彫刻師、製造職工、電信技手、植字人其他斯の如きもの皆可なり日本の婦女も他諸國の婦女と同じく男子の助を假らず自立するの方を知らざる可らず一人にて浮世の戰爭に出陣するの心得なかる可らず然らざるも若し一旦事あらば奮て自ら支へ子女を敎育する程の覺悟なかるべからざるなり(高根虎松、譯)

●佳傳

○ブルータスの妻ポルシア

昔し羅馬の帝國にシーザアと云へる皇帝あり豁達にして智勇兼備る古今非凡の英雄なりければ之に敵する者は前後踵を接して皆な悉く亡び四方威懼して國民臣服せり然るに獅虎を倒す者は反て其身中に在りシーザアに歸服せりと見へたるカッシアスは內に在て遂に此大王を倒すの虫とはなりぬ抑もカッシアスは人の榮を猜みて常に不平なるものなり左れば威勢いよく高きシーザアを見ては其心鬱憤して慰するに由なし密かに同志を語らひてよりく其不平を洩し時には之を激させてたゞ時世を怨ましめんとはせり然るに此頃亦ブルータスと云へる愛國の士あり居常堂々として事に皆な正義を執り自由と眞理との爲には苟くも情を曲げざる武士なりしに奸智に長けたるカッシアスはいつしか之に狎れ親しみ其正義を執つて動かざるに投じて之を私望を遂ぐるの助とはなさんとしたり而してブルタースは亦シーザアの親友なり其情に於てシーザアを愛するの厚きは當時の何人も得て及ぶべきにあらざりしがシーザアの威勢は國民に害あり其皇權は自由の敵なりと論ぜられて一旦カッシアスの長辨に己が愛國の眞情を動かされては其友情は最早正義の念に打勝つ能はずブルータス猝然としてカッシアスの徒黨に與みし淚を揮つてシーザアを除かんとは決したり

然れど自ら顧ればシーザアは我を愛すると子の如し平常未だ曾て我につらかりしとあるを見ず然るに今ま此父を、此恩人を、此尤も親愛する我友人を、國と自由との爲に殺害し去らんとすと思はゞブルータスの心中固より安らざる所あるべし出でゝ徒黨の面々と事を謀る時は正義の念凛々として能く其情を制する如し然れど家に歸りて密に思ふとき特には夜中床に入りて靜かに顧る時情緒綿綿として心をなやませ煩悶遣る方なきの憂ありけり妻ポルシアは早くも夫の樣姿を見て不容易

の御なやみありと覺へ倘一層ふかく之を愛ひけり。
抑もこのポルシアと云へるは有名なる學士カトーの娘にして早くよりブルータスに嫁ぎたるなり其心は妻としての愛情甚だ厚く且つ上に學なき婦人には見る可らざる才智を兼ね備へたれば此時直ちに夫の人に秘する事件を問はず先づ其身夫の秘事を聞くに堪ふるや否やを試みんとて侍女供を遠け室の戸を閉ざし密かに懐劍もて己が股をつんざきたり流るゝ血身を潤ほす痛苦にも心は靜めたれど之が爲め熱病とは成りて打伏しぬブルータスは故を知らざれば大に打驚き之を介抱し乍ら其枕邊に附居たりポルシャ痛苦を忍びて潜かに夫に語るやう
吾夫、君はカトーの娘を娶り玉ふに只だ之を女の運とは見做し玉はじ憂きも喜びも君が運を分つものとは思し玉ふならん妾は君にそひ參らせてより君の御愛切なれば固より妹背の契を愛しと思ひしもただに然し然れども妾もし君が秘密の御なやみ又は君が秘密の御談らひに預り得ずば君は妾が何如程に君を愛し又君に信あるやの證を知ろしめさじ抑も女に事を秘するの力なきは凡べての女性の常とは云へ有徳の教育と名誉ある配合とは此弱き心をも強め得べしポルシアとそカトーの娘ブルータスの妻には候はずや然れども妾は自ら之に安んじ得て斯様にして自ら試み候て今は苦痛をも倘忍び得べき力の妾にありとは覺り候ぞ
と語へ乍ら其傷を示し自らつんざきたる由縁を話りぬブルータス愕然として思はず双の手を高め神々願くは此の僕の企望を忠なポルシアに愧ざる程の事をも爲させ玉へと祈りたり
斯て徒黨の計畫其圖に中り皇帝シーザー亂劒の下に倒れたる後民心狂亂して升を安んぜざればブルータスはカッシアスと共に伊太利を去りルカニアを經てニレアに逃れたり此時途よりポルシアを返すにポルシアは夫を遺りて獨り故都に歸るとの心苦しさをたゞ力限り心に制して憂の樣を示さじとすれどあやにくに目に留まりたるはヘクトル、アンドロマーク別離の繪圖なりヘクトルは其子をアンドロマークの腕に附たして去らんとするを見ざる態のアンドロマークは男の顔を窺み見て悵然たりポルシア亦此圖を見ざらんとして心彌よ悲しく胸ばむせび入らんとしてたゞ人目を忍びけりブルータスの友人アシリアス其情を察し古人が詠み出でたる歌を吟じて
ヘクトル此世に在さんには　父母兄弟皆な君に在せり
とて目前のアンドロマークが思を述べたりブルータス莞爾として余はヘクトルがアンドロマークに答へし如く

早く御身の家に歸り　糸とり紡ぎの業したまへ
とは云れしポルシアの身躰は吾黨と共に盡すの力あらずと雖へどろの精神國の為に盡すの力は敢て吾黨の下にあらじと申して相思相愛の伉儷遂に一生の途を別ちぬ」斯て後ちブルータスは戰に破れて自殺しポルシアは人に自害を止められて劔を得るに由なく爐中よ燃ゆる炭を口に含みて死せんとまで試みけるとぞ

○松嶹佳人傳（第七回）

寒月高く澄んで樹陰くらく人跡既に絶へて松際たゞ堀々たり新太郎は不思議の水音にそと近づきて之を窺へバ年倘ほ若き一小娘が社前の井水を被りて何やらん祈願する樣とれ認めぬ斯る寒夜に何をか祈るらん哀れの者よとすかし視れバ圖らざりきこれ小勝なりあなやと打驚かれて先づ聲をかけたれバ小勝はふり反りて莞爾としたるが驚喜に胸せまりて卒然伏し倒れぬ、小勝氣を確かにせよ、小勝、小勝、さても斯く冷へ渡りては一命に危し、小勝、小勝と呼び生れど虫の息わづかに通ひて元氣容易く復しがたし新太郎は其儘之を負ふてまた元の道に回り或る茶亭に乞ひ登りていろ〳〵に介抱したれバやう〳〵に身も温まりて僅かに言葉を出しぬ、先づ何如なれバ斯る寒夜に水を被り尊き躰をそろそかにハ為すや、尊き躰とは貴方の御事國の為め道の為めに重大の任を負ひ玉ひ乍ら一朝御心を變へて不義の祿に御身を任せ玉ふと何如にしても口惜しき限と思ひ候へバ此上は神々の御助あらで君の御心を反し玉ふはあらずと斯くは夜な〳〵誓願いたし侍り今復た御目よかゝるは願の聽かれたる兆にやあらん何卒御心を元に復し正義の為に御力を盡してよと云ふ新太郎ほと〳〵感じ入りて初めて終始の志を語り身を賣るの策も亦皆な國家の為なるよしを明しぬ、小勝の喜果して何如ん、佳人いよ〳〵秀才を知りて交情ます〳〵濃かなり

斯る折櫻井某、久馬、など云へる腹心の家生やう〳〵に新太郎を尋ね當りて急卒此席に登り來り何やらん火急に申したしと云ふ此は兼ても知らしたる小勝なれバ心置なく物語れとあるに久馬は膝を進ませ先づ慷慨してさても先生仕損じたり幕府は過日頼氏を刑に處せりとの報を得たり、ナヲ三樹を刑したとかさては智深き掃部頭吾が謀計を見透かして反つて吾を欺きたりやよし〳〵然らバ松嶹外史安んぞ此に報ひざらん久馬は早く此々し櫻井はろれ斯々して速に事を擧るの準備すべし吾今ま已に心を決せり一旦郷に歸りて母を省み復た直ちに上

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

京して最早や多年の企を試みんと悲憤腕を扼して慨歎す
一身渾是膽、意氣何雄豪、伏義泰山重、生命輕鴻毛、唯逢細碎讐、却惜一擧勞、千金有諸猶未果、咲撫腰間百煉刀、とは新太郎が郷里に省して老母を友人龜井に托したる時事を擧るを止めたる人に對して志を告げたるものなり之より先き井伊掃部頭はさすがに家里等の擧動を奇怪とし特には其徒の趣に受取りがたき所ありとて密かに探索細考したるが此度遂に紀州家に通じ先づ家里を初として全國の志士を斃すべきやう計を定めぬ新太郎また之を探知していよ〳〵悲憤し涙を揮つて郷を去り京に歸りたり此時坂本龍馬吉村寅太郎等はすでに謀を誂じ合せて事を擧るの準備をとゝのへ美濃に在りける大原仁兵衛もまたすでに大藩に兵を借る仕度を爲しぬさらば明日はいよ〳〵事を擧げんと決してそれ〴〵に部署し終はんぬ新太郎は酒を命じて快飮し高らかに詩を吟じて獨り心を慰めたるが熟睡たゞ今夜のみと其がまゝ臂を曲げて打伏したり時に有明の月やうやく登りて庭の松老瘠したる影をうつし四面寂として草木も亦た眠りたらんやうなり忽ち見る覆面の武士四人ばかり塀にすがりてする〳〵と庭に降りたるがそと門の鎖しを開けば玆には亦同樣の怪の者十四五人も待居ける

●寄書

○宗教眞假論（第二）

伊波定子

基督曰く僞基督僞預言者興りて休徵と奇能を行ひ選ばれたるものをも欺くことを得ば欺く可ければなりと蓋し自家の敎を除くの外は假令休徵奇能を行ふの力あるものと雖も皆な假面已矣眞にあらすと斷言せり其言たる局外者より之れを見れば頗る偏頗苛酷に似たりと雖も斷して無稽の言にあらさるを信ぜり如何となれは方今地球上に行るゝところの諸敎神儒回老佛の如き勢力各强弱ありて固より一樣ならすと雖も多くは取るに足るものなく一旦の下眞假を瞭然たらしむ只獨佛敎に就ひて聊か愚評を下す時は諸敎の内最も勢力あるものに似たり彼れ三世の因果を說き善惡の應報を論するの至妙蘊奧なるや基督の天國復生を論すると頗る徑庭なきものゝ如し只彼れは虛に基づき之れは實に信す彼れは妄を用ひ之れは眞を認むるのみ上世佛祖か布敎の始めに際つてや自から三世獨尊の救主と稱し一切の衆生をして汚濁の塵世を外脫して極樂淨土に佛化を得せしむと無數の罪業消滅の功德を說くや爾來于今三千年我か東洋に滋蔓して上は帝王の尊きより下は庶民の賤しきに至るまて如今殊勝の思ひを抱き多慾の志を翻して慈善の心を起し大ひに世道の風化を補なひたるや昭々として明らかなりこれを史乘に徵するも佛に歸依するものゝ豈に悉く暗愚無智なるもの而已ならんや梁武の達磨に於る家康の天海に於る豐公の大佛を起す機山謙信の常に僧衣を纏えるが如き蓋し各ゝ信ずるところあればなり然れども人造作爲の假敎は世の進步するに從つて往々欠點不完全を生し屢改良を促して新趣を競

はさるときは鍍金次第に脱落して上世創始の固形を保つ克はず於此乎睿海親鸞日蓮の徒派を判ち流を別にし新趣を出だし妙旨を凝らすも世運は愈進歩して佛法に伴はず今や鍍金悉皆脱落して復た見る可からさるの地に落ちたり抑一定の眞理は萬古不易の者なり故に世運は寧ろ眞理に從つて變遷すべしと雖眞理は決して時勢に伴つて變遷すべきものにあらず未開の世に諸ろの宗教が勢力を得て多少人世に功益を與へしは野合は暗夜の燈火に於るが如し彼の燈火たるや漸時に進歩して始めに臘燭を用ひしもの次ぎに石油に移り又進んて瓦斯となり又進んて電氣燈となれりされど旭日東天に輝けは燈火皆効力を失つて無用のものとならん一定不易の眞理教は倘此の旭日と効用を同ふすべき筈なり

抑も宗教の要旨は人心の邪惡を洗つて未來の地をなさしむる一大秘訣なるべしと雖も今世になつては克く道德を維持し風俗を淳良にして世の開明を助くるの力らなる結果を生ずるものこそ眞の宗教と云はざる可からず佛教の印度に於る儒學の支那に於る回教の土耳古に於る神道の日本に於る果して克く風俗を淳ふし開明を助たる結果ありや觀よ印度は亡ひ支那は衰へ土耳古は亂れたり我日本は未だ幸ひに陰佑せざるの綱紐宜しく戒心すべきの秋ならずや建國百年の米國は七月四日に如何なる紀念をなすか三千年の老日本に萬事萌衰たるは抑如何なる原因に由るもの乎世の文明は基督の遺蹟なりとは又た眞ならずや人あり曰く歐米の文明は宗教の開發によるにあらずして智力の競爭之れが結果たりと然れ共往昔希臘の文明亦歐米に讓らずと雖も遂に今日其跡を絕つに至れり眞理の教に從つて制度したるものにあらずして殁ろ眞正の文明を永遠に維持するを得んや畢竟宗教眞假の結果は文明眞假の結果を生ずべきなり諸まざるべけんやと云爾

○小野小町の話

武州南埼玉　齋藤新助

小町の事に就き度々掲載ありしが拙者此程聞き得たる所あれば聊か貴社に投ず小野と云ふは禁中官女の居れる局の名にして藤壺より西にあり然るに支那前宋の代潤川の南五里を去て小野と云ふ處有其里に韓氏と云者の家に一人の美女ありて婦徳たると世に稱なり殊に詩文に通じたりとぞ時に宋の官女の局に姿容谷と云ふは同く御殿の西にあり後に彼女この姿容に備へらる故に昔日本の小町の局に仕ける女に美女ありて又宋のゑんやうしやに仕ける女小野郷より出たる美女ゆへ小野小町と日本の彼女を名くるものならんか或は出羽郡司良實が女なりと謂ふもしかとしたる記錄に見へず有籍の說を考ふるに仁明帝の時の人に有るべからず前宋の小野の里の女の事に付たるなるべし又原ては申す可き事あり彼の中納言定家卿の精選にかゝる百人一首中小野小町が花の色はうつりにけるはの歌は小町にあらずして彼の小侍從が吟したるにて借に和歌式十二の卷に出てたり是れは仁明帝後三十年過きて小侍從君の御寵愛に背き北山木の庵に住ける小侍從都に有し時より常に櫻を好て山木にも一二本植置て其盛によそへて花の色香の中淋の頃あだなる風に吹きちる林を見て我君の御寵愛のすたれたる事等彼是あだとなるに觀しよめる歌なりと云へり然るに定家卿此歌を小町と付玉ふは小侍從が歌なるとを知らざるには非らず君を恨みての歌殊にこの歌大に好色の骨髓を述た

れは彼是の障有ゆへに昔の小町と人をかへ給ふなりと云へり是れ此やう成る例往々在るとにて李南生は晉の代長公子か詩を漢の寄生か作と名をかへたり又三躰詩絶句に杜常及ひ方澤は皆宋代の人なるに唐代の詩人につらねたると等あるも編者意あつての事なるべし

寄書。従來寄書はすべて落手の旨を此處に記載したるが向後都合によりて之を廢す

HER STRONG SENSE OF DUTY.

Home they brought her warrior dead:
She nor swoon'd, nor utter'd cry:
All her maidens, watching, said,
"She must weep or she will die."

Then they praised him, soft and low,
Call'd him worthy to be loved,
Truest friend and noblest foe;
Yet she neither spoke nor moved.

Stole a maiden from her place,
Lightly to the warrior stept,
Took a face-cloth from the face;
Yet she neither moved nor wept.

Rose, a nurse of ninety years,
Set his child upon her knee:
Like summer tempest came her tears—
"Sweet my child, I live for thee."

Tennyson.

Thou know'st how guiltless first I met thy flame,
When love approached me under friendship's name,
Guiltless I gazed; heaven listened when you sung,
And truths divine came mended from your tongue,
From lips like those, what precept failed to move?
Too soon they taught me 't was no sin to love.

新報

○下田歌子　同君は歐米各國の女學校及宮内の模様視察の為め來春早々官命を帶て出發あらんとするよし所々の新聞に見へたれども吾人の聞く所によれば此事全く誤聞なるが如し尤も同君は兼てより斯る志願のあらせらるゝと承はれども既に谷大臣が華族女學校々長たる資格をも兼て嚢に洋行ありたれば今復た學監たる同君が同様の事項視察の為め出發あらんとするとハ素と信じ難き説と云ふべし

○婦人矯風會　同會の發起人が委員七名を舉て規約の編纂を托されたる趣は既に本誌第四十壹號の新報中に記したるとなるが其後右規約も出來したれば去る六日には午后二時より府下日本橋の會堂に有志の婦人を集め彌よ發會と役員撰定の集を開かれ同日は海老名彈正氏の勸話と近頃米國より歸朝ありたる田村直臣氏の米國婦人談とありて後に役員を撰擧ありたるに當撰の人は左の方々なりしと云へり

議員

矢嶋かち　大儀見よね　海老名みや　佐々木とよ
井深せき　服部ちよ　島田まさ　三浦りう
森嶋いそ　青木まさ　井石　本田じゆん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

竹内たけ　淵澤そのへ　淺井さく　須崎

右議員は更に左の役員を複撰したり

會頭　矢島かち

書記　佐々木とよ　服部ちよ

會計　海老名みや　三浦りう

且つ同時に規約書を配布し又會員の証票を附與ありたるに當日迄の入會者既に五十一名特別會員二名ありたる由也尙同規約の大略は左の如くなれども其規約書入用の方は郵券相添へ弊社まで御申込あらバ直ちに呈送すべし

○婦人矯風會規約〔明治十九年十二月六日〕

第一條　名稱

本會は婦人矯風會と稱す

第二條　目的

本會は社會の弊風を矯め道徳を修め飲酒喫烟を禁し以て婦人の品位を開進するを目的とす

第三條　會員

第一節　凡そ婦人にして本會の規約を承諾し左記の誓約を行ひ全力を盡して矯風の目的を擴張すべきことを誓ひ且つ毎月本會々計に金三錢以上を拂ふ者は本會の會員たるを得べし

右誓約

今玆に上帝の祐助に依り和洋一切の酒類及び煙草其他風俗に害あるものを禁廢せんが爲に總て適當の方法を盡さんことを誓ふもの也

第二節　男女に拘らず一年に金一圓を納めて本會の目的を贊助する者を特別會員とす

第三節　會員の資格を失ふ者は會頭委員協議の上之に退會を命ずべし

第四節　入會退會は其旨を會頭に申出て其許可を得べし

第四條　役員

第一節　本會の役員は會頭一名議員若干名（可成各教會より一人宛を出す）書記一名會計二名とし尙事宜により副書記副會計を撰び各部の部長と併て事務委員となすべし

第二節　會頭會計は毎年々會の際投票を以て撰擧し書記は會頭之を指命し議員は各教會内の會員之を撰擧す

第三節　本會にて執行する諸の事業を適宜に部分し每部に部長一名を置くべし

第五條　役員職務（略）

第六條　集會

第一節　年會は毎年三月に開き其時日及會場は書記より其都度報告すべし且當日に次年の役員を撰擧すべし

第二節　本會の定期會は二、五、八、十一、月に開會し其節諸部長の報告あるべし

第三節　臨時會及相談會は該需要に随ひ幾回にても開會すべし又事務委員及其他の委員は見込に随ひ幾回にても集會すべし

○妾●　從來婦人方は自ら稱して妾と云ひたり之れ固より其身を卑しみてメカケの如しと云へるにはあらずたゞ謙遜したる自唱の文字なることと例へば奴隷ならざる男子が其身を僕と呼び堂々たる切要の人も亦た余と稱へたるが如し特に怪しむべき理あるべからず然るに吾等若し婦女をして妾と唱へしめ

なば異日之を外國の語に反譯せんとき初心の人ありてコンキウバインなんど記したらんには國躰を損すると非常なりと慷慨したるものなり之れ甚だ至當の心配にて愚妻と云へるをフーリッシワイフなど反譯せんずる洋學者多き間は尤も用心すべきことと云ふべし但し婦人自ら稱して妾と云はゞ是れメカケと訓す可らずワラハの事なりと心得るとも亦切要ならんと柳下惠子申す

○貴夫人生家の取調　各官廳の高等官以上の閨室の生家及び父兄年齢等を取調べ差出す可き旨を其筋より夫〻へ通報せられたりと云ふ中には立派なる生家又は父兄等なき方にも非さるべしと東京日々新聞に見ゆ

○女學校彙報　京都女學校は追々生徒増員して現在總計五百人餘に及べりと又英語科に入るものも追々多き由。駿河三島驛の豪商花島兵右衛門小出市兵衞の兩氏は熱心なる基督信徒なるが此度資金一萬圓を募り米國より女教師を聘し花島氏の邸内に一女學校を設立せらるゝよし同地に宣教の爲め出張中なる奥野昌綱氏も大に盡力せらるゝと云ふ。佐賀縣佐賀敬數女子小學校は同地松原町郡役所跡へ移轉せられ去る一日移轉式を擧行ありたりと同校の現在女生徒は三百五十名ほどのよし。大坂西區阿波堀九丁目の私立大坂女學校にては追〻入學生徒の増加するに付今度更に新潟縣より一名の女教師を聘傭せらるゝよし。横濱山手のフエリス女學校教師ル、ウイン氏は今度同港の某商人と結婚あるに付き來春よりはハルリス氏が日々通港して教授ある由。本所横網町二丁目に淑女館と云へる女學舍を設けられたり。神田の女子職業學校への入學志願者は日増に増加して今日に於ては總生徒の數二百五十名の多きに及び尚ほ五六十名も志願の婦人ある趣きなれども校舍の狹きが爲め當分入學を謝絶したる程なり又甲乙科生徒とも最初より入學して器用なる向きは内外服の裁縫、編物、刺繍等二三業を兼ね修めて餘程進歩の著しき向も尠なからず現に同校にては生徒の手に成りたる品〻をば一般人の望に應じて賣捌き一品毎に其利純を半分して其半を勞力に酬ゆる定めなれども尚ほ同校の思ひ付きにて直ちに之れを渡さず其本人の名を以て悉皆驛遞局の貯金課へ預け置き積金と爲す趣向なり又同校は注文に依りては一般人の和洋裁縫を引受くる筈なれども目下高等女學校生徒の洋服五十揃仕立の注文を引受け餘ほど忙しきよしなれば當分他よりの依賴を斷りたり

○女生徒の洋服　華族女學校にては是迄服裝の一定せざりし

より貧富に從て同し生徒中にして衣服の醜美に少等の差あり貧家の女子は爲めに他に轉校する如きの事あるによりかくては學校の衰微と敎育上の妨害を來たすべければとて此頃一定の服裝に改め色合を各自の勝手に任すれとも服地はすべて同品を用ゆる事になりし由。又京都府立師範學校女子科生徒は同校の尋常科師範學校とある上は餘程被服等すべて官給となるよしかつ役服は一般に洋服を用ひらるゝよしに聞く

○女學の演說　加藤弘之君は去る十二日學士會院の講話會に男尊女卑の是非得失と云へる題にて演說あり。又田中智學氏は十一十二の兩日馬喰町の郡台樓にて佛敎夫婦論と云へるを演說ありしやに聞けり

○產婆組合　牛込區にては區長の注意よて產婆の取締りを嚴正にし先月廿四日區內の產婆ハ集會して福田お伸を會長に岡村たり桑を副會長に松浦お八重、田坂およね、赤尾おかねを幹事とし組合規約の事を其筋へ願ひ出でたりといふ

○婦人科診察　醫科大學第一醫院にては去六日より婦人科の診察を火木土の三曜日正午十二時より始むることとせらる

○女醫　本年第二回の醫術開業試驗に及第したる總員は二百二十餘名にして內女子一名ありたり

○和歌山婦人會　本會ハ當時區立和歌山女子高等小學校內に設置せられし同校女敎員の發起に係るものあり即ち本會を組織せし最初の趣向をいはんに本年五月初めて同校に於て和歌山區內婦女子の大集會を相催し(會合の人員二百有餘名)生徒への授業法及生徒の製作物習字帳操等を一覽せしめ後講堂に於て來會者一同へ當時に適當せし同校敎員の感じ論等をなし此くすることを兩三會に及び遂に本年十月本會を組織するの報告をなし會員を募集せしに最初二十一名にして目下五十餘名に至る。每月一回つゝ第一の日曜日を以て開會なし居れり同會長ハ當時假りに同區長を以て之に充て幹事ハ同校敎員酒本みつゑ氏同く藤田八重氏他に在職たか女史あり抑も本會設立の目的や會員各自よ女德を備修し智識を交換するにありと然れども發起人の精神や素より一己に止まるにあらずして遂に娼妓全廢說に同意し醜業を取の女子をして正業に復せしめ禁酒の主義を主唱して遂に和歌山婦人矯風會より一の確乎たる女子職業者婦正所の如きものにても設立せんとの目的なり附後同會の益々隆盛に赴むき活潑ある運動を現られすのときを見ることこそ願はしけれ(和歌山基督敎一信者、報)

○工女募集　大坂三軒屋紡績會社にては今度工女に不足を告げしを以て五十名の工女を募集せられ亦た安治川マッチ製造所衛榮社にても事業益〻盛大に赴くに付き三百名の女工を募集せらるゝと云ふ

○福岡婦人十八名の建議書　は前號に記載せしが去月三十日右の建議書に付て同縣會調査委員は報告をなし之れを議するの必要を陳辨せられたりしに遂に滿場の一致を以て廿年度より募集する事に決せり尤も敎場は現今の各室中にて操合せ寄宿は廿年度中に限り見合せ通學せしむるとし遠方の女子は當地親族若くは其他に寄宿して通學せしむるの都合なりと近着の福岡日々新聞に見ゆ

○ハルレル夫人の慈善　米國人ドクトル、ハルレル氏は宣敎の傍ら築地に施療院を置き且つ大橋邊に出張所をも設けて廣く施療し居るよしなるが其の夫人は是まで慶應義塾に聘せられ日々子弟を敎授し來りしに豫て盲唖等の如き不具者を訓育せんとの志あり築地の訓盲唖院にも其の人を要する折柄なりしかば玆に相互の議整ひ夫人は慶應義塾の方を止て日々二時間づゝ訓盲唖院へ出勤し音樂、裁縫、組物、編物等を敎授することになりたるよし尤も慶應義塾の謝金は月々五十圓なりしも訓唖盲院の方は二十圓なり夫人が報酬の厚薄を問はずして力を慈善の途に盡すは如何にも感ずべきことなりと毎日新聞に見ゆ

○スミス敎師　函館なる女敎師スミス氏は宣敎の傍ら有志の人々に英語の敎授をせられしが今度札幌師範學校の語學敎師に聘せられしよし

○改進黨婦人の大會　英國チエサイアに於て去る十月廿九日の夜改進主義を持する婦人の大集會あり其目的は此集會に於て改進黨婦人會と云へるを組織して現政府即ち保守黨を助けんとする婦人同盟會と拮抗し次回の選擧に於てはグラッドストーン氏をして再び政權を握らしむるの幇助を爲すと前に保守黨の婦人がソーリスベリー侯及びチャーチル侯に助を與へたるが如くなさんとを決議したる由

○淸國福建婦人の有樣　上等社會の婦人則ち官員、豪商、等の婦人は幾何の敎育あるかは知らずと雖も多くは無學無識無氣力のものにして只脚足の最少なるを誇るのみ又寺院に參詣し親戚を訪問する事あるかは知らざれ共多くは一家内に閉居する習慣にて極めて外出せず若し外出する事ある時は必ず轎に乘り其四面を蔽ひ他人をして其顏貌を見るを得せしめず且つ

主人親戚の朋友と雖も男子には一切面接及び口話を得せず中等婦人に至ても小脚閉居絶交は例の如しと雖も家事の爲め多少の外出をなす下等婦人則ち舟夫（當地舟住居の者數萬の多きに至る）商家農家等の婦人は前者と全く反對に出で日々仕事の働きは男子よりも活潑なる有様なり此等の婦人は一般に耳に大環を垂れ跣足にして鞋を穿たず面は黒く足は大きく舟婦は艪漕を常とし商婦は荷運を業とし農婦は鍬鋤を手にして田畦一般の用を爲し我國田舍の下等婦人も其活潑と勉強とに至ては劣る事あるも優る事あるまじ且つ此等婦人に對して一層目立て我國婦人の及ばざるは髪を亂ださゞる事と一定の制服に從はざると醜男と雖も裸體を見はさゞるとの三ケ條あり然れども敎育の一點に至りては殆んど之なし此頃只耶蘇敎師の女學校を立て貧女を養ひ幾分の敎育を與ふることあるのみ支那に付て一の女學校なし我東洋中男尊女卑の風は尤も支那に盛なりと云ふべし何となればすべて度外に置き頭より語るべからずと定めしにや男子に向ひて婦人が如何に罵詈するも男子は之れに向て應答するは反て男子の品格を失ふといへばなり故に支那にては男女の喧嘩口論を見聞する事甚だ稀なりとすと十二月八日の時事新報に見ゆ

○辨當　大坂府廳にては官吏の自宅より辨當を持參する者は自今男子に限り女子をして持參せしむることを差止められし由去七日の大坂日報に見ゆ何如の譯にや

○學士會院の講演　別項に記せし如く加藤君は去十二日上野公園内の敎育博物館講話室にて男尊女卑の是非得失と題せる一説を辨ぜられたり其要旨は世人は男尊女卑を野蠻未開の世に行はるゝ弊風として道德倫理を知らざるより起る如く思ふなれども此は進化の理を知らざるの誤なり野蠻未開の世には男尊女卑の風が却つて社會の秩序を全ふするものなりと辨じ併せて今日の本邦の有様にては最早男尊女卑の風は惡きゆゑこの風を改めねばならぬが其れには女子の敎育を盛んにせねばならぬと云ふことを論ぜられたり。但し同日は社友某が君の講演をそのまゝに速記したれば本號以下に其全文を掲ぐべし讀者宜しく之に依りて傍聽を欠き玉へるの憾を散じ玉へ。又從來學士會院の講演には貴女の來聽するもの甚だ尠きとありしに同日は十有余名の貴女をも見受けたり尤も其の内一兩名を除く外は悉皆束髮の女生徒らしき方と見申せるよし社友が物語りぬ

（右速記文は余白なきに付例の如く附録として左に掲ぐ）

○加藤弘之君の講演（男尊女卑の是非得失）筆記

今日は「男尊女卑の是非得失」と云ふことに付て意見を述べませう。すべて此の世の中の有形物でも無形物でも世の中にある事物の道理を考へるときに今の有樣を見て而して現在の有樣ばかりに付て物の道理を考へると道理が間違ッてしまふ。併しながら昔からやッて來た學者の物の考へ方は大抵さういふ譯にあッて居る。さういふ譯にして來たから道理を考へたことが謬ッて來た。なぜ現在の有樣を以てすると謬るかといふと一躰有形物でも無形物でも昔から今日まで始終變遷してあり進化して來て居るもので二六時中變化しないものは無い。それで變化して來るものを變化の無い現場の形で考へるから其の說くことが間違ッて來るのである。

昔しから學者が第一に人間の道理を間違へてしまッた。其れはヤッパリ現場の有樣を見て間違へて來たのだ。昔しからの學者が道理を間違へた本が二つある。其の一つは地球を以て宇宙の首領としたので今一つは人類を以て萬物の首領とした此の二つから間違ッて來たのである。さういふことが間違ひの本で人間自らの道理を間違へてしまッた。地球のことは今ではよく分ッて居るが昔は天地間にある天地間のおもなるもので地球の爲めに日月星辰があり日は晝地球を照す爲めのもの月は夜地球を照す爲めのもので太陽は地球に光線をよこして人間の生活の本にし溫素も亦人間の生活の本にするものである地球は宇宙の首領で人間は萬物の首領だから總て人間の用を爲すためにするものだといふ考へが起ッて來た。其れだから人間が天地間に一番の首なるもので日月星辰も萬物も人間の爲めに存して居るものだといふ考へが昔の學者に起ッて來た。さういふ說が西洋に精しく印度や支那のは西洋のほど精しくは無いが支那でも人間を萬物の靈長であると言ひ小天地と言ひまた天地と人と並べて天地人と言ッたこともある。印度でも人間といふものは貴いものとしてあッて畜生餓鬼修羅などは人間の下に付けてあッて佛を除くと人間が一番としてある。併し人間の貴いのは進化して貴くなッたので世界が開けてから直ぐ貴いのでは無い。進化の道理を知らぬから人間が天地開闢以來貴いものだと思ッて居て少しも進化といふ考へは無かッたに違ひ無い。其れだから人間の爲めに總てのものが出來て居るといふ考へが出來て來た。けれども太陽が地球を照し地球では人間がおもだから人間の爲めに大陽がある といふ理屈になるけれども月といふものも夜地球を照す爲めのものであるとしたところが月にはヤミとツキヨがある。なぜヤミがあるか何の爲めだか分らない。また馬は人間が乘る爲めだとか牛は人間が食ふ爲めだとか農業を助ける爲めだとかいふと說が付くがさうすると人間に害を爲すものは何の爲めに出來たのか少し說が立たなくなる。耶蘇の坊主などに言はせると「人間を罰する爲めにゴッドが作ッたのだ」と言ふ。併し其れが人間の惡いことをしたものばかり害するので無くて善い人でもやられる。其れだから前に言ッた樣なことを言ふとつまる所がコンナをかしなコドモダマシな樣な說で牽強附會、なければならぬ樣になる。

ところが歐羅巴では近ごろ其れが間違ッて居るといふことが學者の發明で分ッて來た。第一の「地球を以て宇宙の首領と爲す」といふ說は天文學の開けたによッて分ッて來た。即ちガリレオとかケプレルとかコペルニクスなどの發明によッて分ッて來た。其れは地球は天地間の首領では無い僅に大陽系の一つに屬して居る惑星で大陽の樣なものは澤山あるもので地球は此の間の中に塵の飛んで居る樣なものだといふことが分ッて來て其れで「地球を以て宇宙の首領と爲す」といふ說はつぶれた。其れから「人類を以て萬物の首領と爲す」といふ說い進

化說でつぶれて來た。近ごろはダーウヰンが此のことを論じ其の前はフランスのラマルクなどの說で分ッて來た。即ち人間は下等の動物から進んで出來て來たものだといふ道理が分ッて來たから第二の方がつぶれて來た。其れで此の二つの大きな發明によッて「人間といふものは天地間の首のものではありやしない」「人間は進化によッて首のものになッた」「人間は生存競爭で自然淘汰が出來て萬物の長(支那で言へば萬物の靈)になッた」とさういふ風に進化して來たといふことが分ッて來たからには人間の道理を考へ人間はドウいふものであるといふことを考へるに現場の人間ばかりて考へては分らなくなッてしまふ。昔のが變ッたことが分らないから「神樣が拵へた」とか「人間は開闢以來人間だ」とかいふ樣に考へるから間違ッてしまふ。既に進化したことが分るからには其のことによッて考へて見なければならぬ。物を考へるにも現場の有樣を考へてやると間違へてしまふ。

ちき分り易い例を擧ると人間にもケダモノの樣に男に乳があるが一躰に變らぬものなら分らぬが何の爲めか神樣が作ッたのなら何の爲めに拵へたか解した說ではたゞ「飾りに付けたのだらう」といふがモウ少し大きければいゝがコンナでは自慢にも飾りにもなりはしない。所が進化の方でゆくと大抵分る。進化の方でいふと哺乳動物には始めは男も女も兩方とも乳が出たらうモット下等のものには雌雄の分れないものがある既に雌雄の分れたものは雌雄の分れないものより上は上だが男も女も乳が出たに違ひ無い。分業といふものは進化するほど盛んになるものだから始めは雌雄も無く其れから雌雄か分れても同じに乳を飲ませることになり其れから乳を飲ませることは女の方ばかりになり男の方は飲ませぬ樣になッたから用ひぬものは衰へて來るし用ふると發達して來るのが當り前だから其れで男の乳は小さくなッて出ぬ樣になッてしまッたのであらう。モットしまひには男には乳が無くなッてしまふに違ひ無い。羊などは男の乳を子に飲ませるのが稀にあるし又歐羅巴では人間の男に乳の出たのがあッたといふがこれは進化の道理を考へると分ることである。

また近ごろ動物學者が人間に尾があッたことを發明した。其れは人間にも卵があッて十月で生れるが其の卵の二月のときには尾のアトが見ゆるといふことである。其れは動物學者が解剖學で見たことで決して臆說では無い。して其れが三月になると見えなくなる。其れは人間が前には尾があッて段々尾が無くなッたといふ小さい歷史をうつして來るので始めは下等動物の形をもッて居たものに違ひ無いことは動物學者が調べて比較したものがある。鷄や魚などの卵も其の發生するに從ッて形が違ふが其れは一躰の進化した變化をまた一身の間にも現はして來るので其のことを小進化と言ふ。

さういふ譯だから現場の形を見て議論すると間違ッて來る其れで動物學者や植物學者の說が間違ッて來た。所が其れが分ッて來たから疑ひの無い樣になッた。さういふ道理は有形物ばかりで無い無形のことにもあてはまる。無形の進化論はスペンセルなどが言ひ又獨逸などの學者も盛んにさう言ふが其れも現場の有樣で言ふと間違ッてしまふ。道德倫理などといふことを考へても現場の有樣で言ふと間違ッてしまふ。然るに今までの學者は現場の有樣で理屈を付けて居る。昔から支那で孔孟の說を落しとした人は孔孟の說を天地自然のものだ孔孟の說いたことで無ければ本當の道德倫理で無いと思ッて居るし又耶蘇の說を主張する者は耶蘇の道德倫理を本當のものと思ッて居る。支那で現場から說いた道德倫理や歐羅巴人耶の說いた道德倫理が本當で其の外のものは間違ッて居ると自分ぎめをするのは大變な間違ッた話して現場のことばかり見て大むかしから今の樣な人間があッたと考へたのと同じことである。其れで今日申す男尊女卑の道理も此の道理によッて說かなければいかない

（未完）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

○本社移轉の事

弊社儀看客諸氏の愛顧と社友諸君の補助とに由り社務大に擧り雜誌の發賣部數も近來頻に増加致候に付ては從來の場所に於て不便の事も不尠此度新橋日吉町八番地に移轉仕り益す社務擴張に盡力致候間一層御愛顧御補助あらんことを請ふ

○書籍取次の事

弊社は看客の便利を圖り凡そ女學に關係ある書籍にして東京府下の書肆中にて出版したる者は一切無料にて取次郵送可仕候依て右注文の方は書名と出版者の宿所姓名とに合せて定價の金員を送附あるべし尤も大抵は其内にて郵送賃を辨じ申すと雖も大部の書は別に郵送賃を請求可致候（但し女學外の書籍と雖も時宜により右様の取次可仕候也）

○書籍出版の事

弊社は女學に關係ある書籍を著作し玉ふ方々の便利を圖り適當の方法を以て其出版及發賣を擔任可致候尤も其方法は原稿一覧の上御相談仕候也

○雜誌切手の事

弊社は看客御遣ひ物贈答の便利を圖り此度雜誌切手なる者を發行致候右は女學雜誌若干部數の代價として割引の金員を受取り之に相應する額面の手形を差上候儀に付四季折々の御遣物には最上の便利と可相成一には女學擴張の爲め大なる効能可有之と被存候

東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

●特別廣告の事

弊社は各地に出來する女學主義の會合近時に至り彌よ増加するを誠に實に欣賀す故に可成其會合の運動を精細に記録し女學雜誌上に報告せんと欲すれども本誌は固と紙數に限あるを以て悉く之を收載する能はず故に其運動の全躰の女學に關係ある部分は必ず之れを掲げたると讀者の夙に承知せらるゝ處あるべしと雖も事のたゝ其會員のみに報告すべき者は常に之を容したり然るに是れ素と弊社の望む所にあらず特には各會合をして互に運動を詳知せしむるの便を欠くべし依て弊社は此度特別廣告の一欄を設け左の方法に隨て如此き記事を精細に收録し得べき便を供ふべし

一　女學主義の各會合に於て記録すべき事件例へば何月何日集會の事、同時某々等演説の事及其筆記、會員の増減出入及び傳道、役員撰擧、會計出納の事、の如き凡そ事の細大を問はず總て其會中より記臆すべき者は悉く弊社に報告を乞ひ其中我國全躰の女學上に關係ありと認るものは新報欄内に收め其餘は廣告欄内に掲ぐべき事（但し別に新報欄内に收ることを望まざる向は新報欄内に只だ其の指示を記し特別廣告の部に所望の如く錄すべし）

二　右特別廣告の欄内に掲ぐる者は只だ報告の儘を直ちに收錄するが故に弊社は其事の是非得失には一切義務を負はざるべしと雖も總て不道德の事と認る事件は之を謝絶して掲載せざる事

三　特別廣告の欄内に掲載する者に對しては總て廣告料を要せず但し特に之が爲めに紙數を増加するが故に左の方法に隨ひ實費の償却を要すべき事

二十七字詰三十五行を一段とし各會合の報告を收るには必ず段を以て限とすべし（例へば一段二段若くは三段中に收むべきを半段中に掲ぐることを爲さず）

右一段中に收むべき報告を寄送ある會合は之を掲げたる女學雜誌十部以上の注文を要し其餘は一段毎に注文十部を増すべし

四　右特別廣告は各會合の運動を其會員中に報告し得ると共に女學雜誌を購讀する數多の讀者に之を廣告し得るの便利有之候也

廣告

婦人矯風會の假事務所を東京々橋區日吉町八番地女學雜誌社内に設置することを委頼致候に付本會に對する通信及び事務は一切同所へ宛て御申越有之度候也

婦人矯風會　書記

時事に感する所ありて私立幼年學校の設置を府廳に願ひ地を神田區今川小路壹丁目壹番地に卜し泰西の新主義に則り體智德育の普及を計り幼稚少女の薫陶に熟達せる米國婦人パラ氏及業を外國人の設立せる英學校に卒へたる本邦人男女二名の教師を聘し六才以上十二才以下の男女三十名を限り親切丁寧に小學科及英語科を授け傍ら歐米の禮儀作法等を教へんとす有志の父兄は本月中に御申込有之度候

服部綾雄

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●繪入女學新聞 毎月三回發行●定價壹部金貳錢●十部前金拾八錢●府外は郵税申請ク

●第一號本月廿五日發行

方今天下の諸雑誌多くは單に男生に裨益する者に止りて女學を益する者に至りては殆んど一二の雜誌に止るのみ本館夙に玆に感ありて今般女學に相ひ適するの一新聞を發兌せんとす記事は主として女流の手に成る書畫詩文歌論説孝女節婦傳記(挿繪)學説雜報總て女子に關し裨益すべき事及び廣告等を採録し記事を平易にし定價を尤も廉價となし勉めて女學者流をして遺憾なからしめ(從々以て女學を振興し相共に國家の爲に盡さんとす幸に各君愛顧を給へ(日本御入用の方は郵券三錢送附次第直に遞送すべし

發行所 東京神田區九軒町壹番地 郁文館新誌局

本校は女子の教育を專とし是迄英洋數裁縫習字の五科を教授せしが今般規則を改正し本科別科を分ち更に左の二科を教授す其詳細は本校規則に詳なり

洋服裁縫科 洋服裁縫は方今衣服改良の説漸次盛なるに從ひ婦女子に必要の業なり故に其途に熟練の者を聘し一兩年にて卒業せしむ

國語學科 本科は從來和文科と稱して一種雜駁なる授業を用ふる爲に常よ多數の年月を要す依て當舍は從來の式を廢し華族女學校の新式に傚ひて專ら法則を教ゆ

神田區駿河臺北甲賀町六番地 **敬愛學舍**

頭註 **土佐日記俚言解** 小中村清矩校閲 佐々木弘綱註解 ○金四十錢 ○全二冊

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○金四十錢 ○全二冊

文話 鈴木弘恭先生著述 二大人批評幷小序 **上下** 合本(完) 價金四十錢 郵税六錢

此書は古事紀出雲風土記祝詞式續日本紀竹取物語空穗物語伊勢物語源氏物語枕草紙土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓挫省筆等の符を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黒川眞頼小中村清矩田中頼庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の模範とす可き良書なり

東京本郷區春木町三丁目十四番地 文苑堂

驛遞局認可

定價

一册。五錢	郵税。一錢	(但府内無郵税)
十册。四十八錢	郵税。十錢	(同前)
廿册。九十錢	郵税。廿錢	(同前)
卅册。一圓卅錢	郵税。卅錢	(同前)

一ケ月分女學雜誌代價	十五錢	府外へ十八錢
二ケ月分同	三十錢	府外へ三十六錢
三ケ月分同	四十五錢	府外へ五十四錢
半年分同	八十八錢	府外へ一圓六錢
一年分同	一圓六十錢	府外へ一圓九十六錢

廣告

一行	一回	(廿七字詰) 前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町 巖々堂
東京芝西久保櫻川町 萬春堂
東京神田區雉子町 團々社支店
同 神田區佐柄木町 東海堂
同 日本橋區新餒町 良明堂
同 京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同 本郷區元富士町 盛春堂
同 本郷區春木町二丁目 解明堂
京都 四條通小橋へ入 澤集光堂
同 三條通東洞院西へ入 山本龜松
大坂 備後町四丁目 岡島支店
伊勢 國松坂白粉町 家里初枝
仙臺 國分町五丁目五番地 伊勢安支店

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 **女學雜誌社**
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 金四十錢 全二冊

文話 鈴木弘恭先生著述 二大人批評幷小序 上下 合本(完) 價金四十錢 郵税六錢

此書は古事紀出雲風土記祝詞式續日本紀竹取物語空穗物語伊勢物語源氏物語枕草紙土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓坐省筆等の簽を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黑川眞頼小中村清矩田中頼庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば與に本朝作文の模範とす可き良書なり

東京本鄕區春木町三丁目十四番地 文[illegible]堂

京都四條通小橋へ入 澤集光堂
同 三條通東洞院西へ入 山本龜松
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地 伊勢安支店

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

●繪入女學新聞 毎月三回發行●定價一部金貳錢●十部前金拾八錢●府外は郵稅申請ク

●第一號本月廿九日發行

方今天下の諸雜誌多くは單に男生に稗する者に止りて女學を益する者に至りては殆んと一二の雜誌よ止るのみ本館夙に玆に感わりて今般女學に相ひ適するの一新聞を發兌せんとす記事は主として女流の手に成る書畫詩文歌論説孝女節婦傳記(挿繪)學説雜報總て女子に關し稗益すべき事及び廣告等を採錄し記事を平易にし定價を尤も廉價となし勉めて女學者流をして遺憾なからしめ益々以て女學を振興し相共に國家の爲に盡さんとす幸に各位愛顧を給へ且本御入用の方は郵券三錢送附次第直に遞送すべし

發行所 東京神田區五軒町壹番地 郁文館新誌局

本校ハ女子の敎育を專とし是迄英漢數裁縫習字の五科を敎授せしが今般規則を改正し本科別科を分ち更に左の二科を敎授す其詳細ハ本校規則に詳なり

洋服裁縫科 洋服裁縫ハ方今衣服改良の説漸次盛なるに從ひ婦女子に必要の業なり故に其途に熟練の者を聘し一兩年にて卒業せしむ

國語學科 本科は從來和文科と稱して一種雜駁なる授式を用ふる爲に常よ多數の年月を要す依て當舍ハ從來の式を廢し華族女學校の新式に傚ひて專ら法則を敎ゆ

神田區駿河臺北甲賀町六番地 敬愛學舍

添註土佐日記俚言解 小中村淸矩校閲 佐々木弘綱註解 ○金四十錢 ○全一冊

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○金四十錢 ○全一冊

文話 鈴木弘恭先生著述 二大人批評并小序 上下 合本(完) 價金四十錢 郵税六錢

此書は古事紀出雲風土記祝詞式續日本紀竹取物語伊勢物語源氏物語枕草紙土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓挫省筆等の签を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黒川眞賴小中村淸矩田中賴庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の捷徑とす可き良書なり

東京本郷區春木町三丁目十四番地 文苑堂

定價

一册。五錢 郵稅。一錢 (但府内無郵稅)
十册。四十八錢郵稅。十錢 (同前)
廿册。九十錢 郵稅。廿錢 (同前)
卅册。一圓卅錢郵稅。卅錢 (同前)

一ヶ月分女學雜誌代價十五錢 府外ハ十八錢
二ヶ月分同 三十錢 府外ハ三十六錢
三ヶ月分同 四十五錢 府外ハ五十四錢
半年分同 八十八錢 府外ハ一圓六錢
一年分同 一圓六十錢府外ハ一圓九十六錢

廣告

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町	巖々堂
東京芝西久保櫻川町	萬春堂
東京神田區雉子町	團々社支店
同神田區佐柄木町	東海堂
同日本橋區新段町	良明堂
同京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同本郷區元富士町	盛春堂
同本郷區春木町二丁目	解明堂
京都四條通小橋へ入	澤集光堂
同三條通東洞院西へ入	山本龜松
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地	伊勢安支店

發行所

本局 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō.

驛遞局認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY